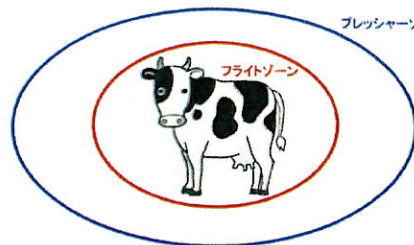


# 【ストックマンシップ】



## はじめに

新年明けましておめでとうございます。昨年度、M農場で新しく入った従業員さん向けに”ストックマンシップ”の勉強会をさせていただきました。作業効率を良くする、怪我や事故をなくすためにも知っておくべきではないでしょうか。自分も牛との接し方を改めて考える機会となりましたので、共有させていただきます。

## ストックマンシップとは

ストックマンシップ(Stockmanship)のストックマンとは”家畜を扱う人”で、シップはリーダーシップ等のシップで”能力”を現す意味です。ということは、”飼い主としての能力・技能”ということになります。

牛の習性を知った上で牛と接し、さらに、牛の習性をうまくとらえて、牛のハンドリングを効率的に行う技術のことです。これから牛の習性やハンドリングの仕方についてお伝えします。

## 牛の性格

いつもと違うことに不安を感じ、好奇心旺盛な反面、臆病さも持つ。警戒心が強く、集団行動を好む(一頭だけ離されると極度に不安になる、分娩時は例外で外敵から狙われやすいので身を隠す)。

## 視覚・聴覚

牛の視野は310度ありますが、真後ろとなる50度は死角、遠近感がとれるのは真正面の一部のみになります(人は180~200度、死角は160~180度)。



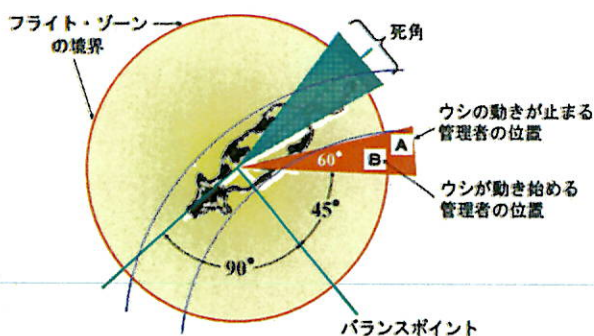
これを知らないと、牛のどこに立ったら認識されているのか分からず、蹴られてしまうかもしれませんね。死角から近づき、牛を驚かせるのはNGです。

色は青と緑のみを感知し、視覚情報を認識するには時間がかかります。明所⇄暗所や、段差や溝に対してかなり警戒します。

人よりも聴覚の高低領域が広く、細かい音に対しても繊細に聞こえるので、とても敏感です。特にかん高い音を牛は警戒します。警戒している牛は、こちらの様子を見ながら、耳を立てます。

## フライト/プレッシャーゾーン

人と同様に、これだけ至近距離に来られたら警戒するという領域があり、個体差があります(接する相手によっても異なる)。警戒を始める範囲が”プレッシャーゾーン”で、警戒して牛が動き始める範囲が”フライトゾーン”です。また、前後左右に動かすためには”バランスポイント(前後は肩のライン、左右は正中)”を利用します。



## まとめ

牛に力や体格、体重で勝てるわけがないので、牛とは子牛のときからしっかり主従関係を築き、時には距離をとって行動することが大切です。決してなめられてはいけません。身の危険を感じたら、自分の身は自分で守りましょう(農場における怪我や事故は多い)。

ざっくりと群に入るときの注意点としては、牛が今やっていること(反芻、食餌等)を中断させない。牛を急かさない、驚かせない、痛みを与えない。かん高い音を出さない、人の存在を知らせてから近づくことです。意識してみましよう。

## さいごに

今回は(というよりいつも?)簡単にまとめさせていただきましたが、詳しく知りたい方は、“ストックマンシップ(Stockmanship)”と調べたら海外の動画等たくさん出てくるので調べてみてください。毎日の牛追いで牛との関係性が構築されていきます。牛には出来るだけ優しく接しましょう。しかし、油断大敵です。私も心掛けたいと思います。

今年もどうぞ宜しくお願い致します。

村上 可奈江(小方)



Total Herd Management Service